

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスがスマートフォン向けなどで弱含んでいるほか、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから一服感がみられるなど、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	「下降」超幅が拡大	「下降」超幅が縮小	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、海外経済の動向、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。百貨店販売は身の回り品等が好調となっており、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売はカウンター商品や米飯などが好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、医薬品や飲食料品が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売はインテリア等が低調となっているものの、除雪用品やエクステリアに動きがみられることから、前年並みとなっている。家電大型専門店販売はスマートフォンや省エネ等の高機能商品が堅調となっていることから、前年を上回っている。乗用車販売は半導体不足等の影響による納車の遅れが続いているものの、前年を上回っている。旅行は国内旅行が持ち直している。このように、個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 感染者の増加もあり中食需要が継続している。油価格の高騰により揚げ物は自家調理せず買って済ませるお客様が増えてきている。(スーパー、中小企業)
- 初売りは開店時に列ができるなど、入店客数がコロナ禍前に近い水準となり、売上げも好調だった。(百貨店)
- 新型コロナウイルスを起因とする行動制限がなかったため、売上げが減少することもなく、弁当類は中食需要もあり新商品を中心に好調を維持している。(コンビニエンスストア、大企業)
- 感染者数の増加により、抗原検査キットや咳止めなどの風邪薬が好調。また、集客を意識して値上げを抑えている飲食料品が好調となっている。(ドラッグストア、大企業)
- 電気料金の上昇によって、ランニングコストを抑えたいというニーズが強くなっており、価格が高くても省エネ性能の高い商品を選ぶ傾向にある。(家電量販店、大企業)
- 受注は新型車効果により引き続き堅調であるほか、販売分は多少入ってくるようになったものの、半導体不足の影響等により自動車の生産に遅れが出ている状況は変わっていない。(自動車販売、中小企業)
- 全国旅行支援があったことから旅行マインドも高まり、予約数が伸びている状況。(旅行代理店、中堅企業)
- 全国旅行支援が紅葉のシーズンと重なりフル稼働。売上げはコロナ前の水準を超えた。前回の旅行支援策で来られた県内客のリピートもみられた。(宿泊、中小企業)
- 人流の増加に伴って各店舗へのファミリー層の来店が増えてきており、売上げは回復傾向。(飲食、中小企業)

■ 生産活動 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

電子部品・デバイスは自動車向けが好調となっているものの、スマートフォンやパソコン向けで海外経済の減速等を背景に弱含んでいる。輸送機械は供給制約に緩和の動きがみられ、持ち直しつつある。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要の落ち着きから、一服感がみられる。このように、生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 半導体不足問題の解消に向け、車載用半導体の生産に引き続き注力している。(電子部品・デバイス、大企業)
- 世界的なインフレや景気後退懸念からスマートフォン向けは需要の強さに欠けるほか、パソコン向けも在宅ワークでの特需の反動などから弱い。データセンター向けも足下で落ち着いてきている。(電子部品・デバイス、中小企業)
- 半導体不足を背景とした完成車減産の影響が改善傾向にあり、生産量が回復しつつある。(輸送機械、大企業)
- 半導体メーカーが在庫調整局面に入っており、それに伴い製造装置への設備投資も後ろ倒ししていることから、出荷数が減少している。(生産用機械、中堅企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいで推移しているものの、新規求人数は小売業等を中心に増加している。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 小売業は、人流の増加、年末商戦への対応から、求人が増加している。(公的機関)
- 人手が足りない中、企業側において転職を考えている人を引き留める動きがみられる。(公的機関)

- **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期
 - 製造業では、金属等で減少見込みとなっているものの、輸送用機械、情報通信機械等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、小売等で増加見込みとなっているものの、電気・ガス・水道、情報通信等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。
- 新製品対応投資や老朽化した設備の更新等により増加する見込みとなっている。(輸送用機械、大企業)
 - 前年度までの大型投資の反動により減少する見込みとなっている。(電気・ガス・水道、大企業)
- **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期
 - 製造業では、木材・木製品等で増益見込みとなっているものの、食料品、非鉄金属等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、情報通信等で減益見込みとなっているものの、宿泊・飲食で黒字転化見込み、運輸・郵便で赤字幅縮小見込みとなっていることなどから、全体では増益見込みとなっている。
 - **企業の景況感** 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期
 - 現状(4年10~12月期)は「下降」超幅が縮小している。先行きは「下降」超で推移する見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、貸家、分譲が前年を上回っているものの、持家が前年を下回っていることから、前年を下回っている。
 - **公共事業** 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、県、その他で前年度を下回っている。
 - **消費者物価** 「前年を上回っている」
 - **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
 - **企業倒産** 「件数は前年を上回っており、負債総額は前年を下回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(4年10月判断)	今回(5年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
山形県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直している。
福島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。